北杜市埋蔵文化財調査報告　第９集

山梨県北杜市

MISAKI－SITE

御崎遺跡

中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）農用排６号工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会
峡北地域振興局農務部

山梨県北杜市

MISAKI－SITE

御崎遺跡

中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）農用排６号工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会
峡北地域振興局農務部

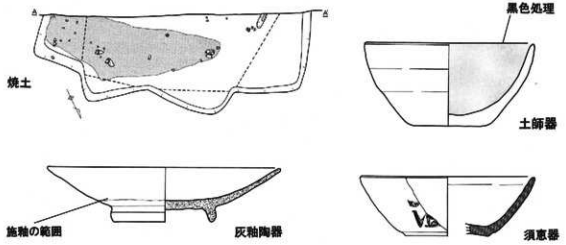
御崎遺跡 遠景写真

例　言

1. 本書は、平成13(2001)年に実施した山梨県北杜市武川町（調査当時、北巨摩郡武川村）三吹字御崎地内に所在する御崎遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の現地発掘調査は、平成13年10月19日に着手し、平成14年３月17日に完了した。
3. 発掘調査は、中山間地域総合整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北地域振興局農務部より委託を受けて当時の武川村教育委員会が実施したものである。
4. 発掘調査は竹田満人・平山惠一が担当し、本書の執筆・編集は平山惠一・坂口広太が行った。
5. 発掘調査において空中写真撮影を株式会社パスコに委託した。
6. 本書に関わる出土品及び記録図面・写真等は北杜市教育委員会に保管している。
7. 本遺跡の調査及び報告書作成に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。ご芳名を記し、御礼申し上げたい。（敬称略）
   山下孝司・関間俊明（韮崎市教育委員会）
8. 調査参加者（順不同、敬称略）
   伊東典雄、伊東加代子、長田あい子、兼松章子、川手栄子、清水やす子、森本秀美、山下千代子、八幡和美、中澤千代美、清水泰倫、猿田定雄、石原すみゑ、澤口よし子、山中敏夫、山田雅子、川村みゆき、大島千鶴、栗澤美香、亀井重治、畠山已幸、真岡真理子、矢野容子、遠藤実千代、鈴木照香、栗原ますみ、千葉毅

凡　例

1. 掲載した地図は、国土地理院発行５万分の１地形図「韮崎」と旧武川村役場発行５千分の１平面図１を使用した。
2. 遺構・遺物挿図の縮尺は次のとおりである。
   （遺構）竪穴住居1/40、竪穴状遺構1/60、土坑1/40
   （遺物）土器1/2・1/3・1/4、石鏃1/1、その他石製品1/2、鉄鏃1/2
3. 遺構断面図中ポイント並びの数値は標高を示す。
4. 遺構覆土色・土器胎土色等は『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。
5. 図版中の網掛部等の意味するところは以下のとおりである。



目　次

例言・凡例
本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第１章　調査の経緯と概要……1
1.　調査に至る経緯……1
2.　調査経過及び方法……1
第２章　遺跡周辺の環境……1・2
1.　地理的環境……1
2.　歴史的環境……1・2
第３章　発見された遺構と遺物……2
１号住居……2
２・３号住居……2
４号住居……2
５号住居……2
６・７号住居……2
１号竪穴状遺構……2
第４章　まとめ……3
御崎遺跡・宮田遺跡出土土器の編年的な比較
御崎遺跡の集落の特徴
参考文献……3

挿　図　目　次

第１図　北杜市武川町遺跡分布図……4
第２図　御崎遺跡周辺地図……5
第３図　調査区全体図……6
第４図　１号住居……7
第５図　２・３号住居……8
第６図　２・３号住居……9
第７図　４号住居……9
第８図　５号住居……10
第９図　６・７号住居……11
第10図　１号竪穴状遺構……12
第11図　１・２号土坑……12
第12図　１号住居出土遺物……13
第13図　２・３号住居出土遺物……14
第14図　４号住居出土遺物……15
第15図　５号住居出土遺物……15
第16図　６・７号住居出土遺物……16
第17図　６・７号住居出土遺物……17
第18図　遺構外出土遺物……17
第19図　遺構外出土遺物……18
第20図　遺構外出土遺物……19

表　目　次

第１表　土器観察表……20・21
第２表　石器・石製品一覧……21
第３表　金属製品一覧……21

写真図版目次

図版１　１号住居遺物出土状況……23
図版２　２・３号住居遺物出土状況……23
図版３　４号住居遺物出土状況……24
図版４　５号住居遺物出土状況……24
図版５　６・７号住居遺物出土状況……25
図版６　１号住居出土遺物……25
図版７　２・３号住居出土遺物……26
図版８　４・５号住居出土遺物……26
図版９　６・７号住居出土遺物……27
図版10　遺構外出土遺物（土器）……27
図版11　遺構外出土遺物（石器）……27
図版12　遺構外出土遺物（石器）……28
図版13　鉄鏃……28

第１章　調査の経緯と概要

１．調査に至る経緯

山梨県峡北地域振興局は、平成13年度中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）の一環で、武川村上三吹地区において農用排６号工事を計画した。武川村教育委員会は同局より当該地の埋蔵文化財包蔵地の有無について照会を受けた。

当該地は平成元年に行われた分布調査の結果、埋蔵文化財包蔵地御崎遺跡として周知されていた。また、隣接地の宮間田遺跡では昭和60・61年度に発掘調査が行われ、村内最大規模の平安時代集落址が確認されていた。御崎遺跡は平安時代の遺物散布地であり、宮間田遺跡の集落址が北側へも広がることが予想されたため試掘調査を実施した。試掘は重機及び人力で行い、その結果平安時代の遺物と遺構と思しき堅穴状の落ちこみを確認した。

これを受けて、県教育委員会学術文化財課と峡北地域振興局と協議を行い、発掘調査を実施すると至った。平成13年10月に調査実施計画書を作成し、峡北地域振興局と協定が結ばれた。協定によって設定された調査範囲は、道路及び灌漑施設の建設工事が行われる区域であり、線的な調査範囲となった。

２．調査経過及び方法

重機と人力によって表土を剥ぎ遺構・遺物の確認できる面まで掘り下げた。河川の運搬・堆積作用により、調査区を北側に行くにつれて表土の堆積が厚くなっており、とくに厚いところでは1.5mを越えた。次に遺跡内の基本層を記すが、河岸段丘上に遺跡が立地しているためか堆積土が安定しておらず場所によっては存在しない層も見受けられたことをあらかじめ明記しておきたい。

第Ⅰ層は表土層である。旧道直下に存在していた層であり、場所により層厚は異なるが、10～15cm程度である。調査地南側に比較的厚く堆積しており北側へ向かうにつれ堆積は浅くなり、北端付近では、削平のため堆積は確認されなかった。第Ⅱ層は黒褐色土層である。宮間田遺跡の第Ⅲ層にあたる層であり、宮間田遺跡では縄文時代から中世の遺物が出土しているが、御崎遺跡では遺物の出土はみられなかった。層厚はおおむね30～40cmであるが、遺跡北側ほど厚く堆積しており60～80cmほどであった。第Ⅲ層は暗褐色土層であり、宮間田遺跡の第Ⅳ層にあたる。宮間田遺跡では平安時代の遺物が出土しており、本遺跡においても同期の遺物が本層から確認されている。層厚は20～60cmで、第Ⅱ層同様遺跡北側に向かうにつれて厚く堆積している。第Ⅳ層は黄褐色土層であり、本層上面で遺構が検出された。

調査における基準点測量・遺物取り上げ・遺構平面図作成は株式会社パスコに委託し、その他必要な図面は簡易遣り方による手実測で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影による記録作業を行った。

第２章　遺跡周辺の環境

１．地理的環境

本遺跡は山梨県北杜市武川町三吹字御崎地内に所在している。武川町は、県の北西部に位置し、西端は鳳凰山を境に南アルプス市、北端は中山、尾白川、大武川を境に白州町、東端は釜無川を境に長坂町及び須玉町、南端は小武川を境に韮崎市というようにそれぞれの市町村と接している。

甲斐駒ヶ岳北方の鋸山を源とする釜無川は、南アルプスと呼ばれる赤石山脈の前衛である甲斐山地の東麓とほぼ平行して南北に流下している。八ヶ岳火山の爆発によって噴出した火山堆積物を浸食し続けた結果、「七里ヶ岩」と呼ばれる高さ50～100mにもおよぶ急崖を形成し、この急崖は白州町の国界橋から韮崎市まで距離にして約30kmも続いている。またこの地域はフォッサ・マグナの西縁にあたり、糸魚川―静岡地質構造線が釜無川・富士川とほぼ平行して南北に縦走し、この大断層とそれに直行するいくつかの小断層が、この地域の急峻な地形をつくりだしている。

町内の北端を流下する大武川は駒ヶ岳を源とし、武川町牧原付近で釜無川と合流する。その標高差は約1,700mで全国でも有数な急勾配の河川である。その他石空川、黒沢川、小武川など釜無川の支流となる河川も、概して急勾配の河川である。その中でも大武川は、急勾配のため浸食・運搬作用が著しく、昭和34年の第７号台風の際には牧原地区を中心に大規模な土石流に見舞われた。これらの大小河川が幾度かの氾濫を繰り返し、形成されてきた河岸段丘や沖積扇状地は、現在では良質の米などをつくりだす耕地として広く利用されている。

本遺跡は釜無川の右岸、三富貴神社から上三吹集会所にかけて南北に広がる河岸段丘上に立地している。標高は約519mを測る。また本遺跡北西部の一段高い段丘面には現在新屋敷と呼ばれる集落が展開している。

２．歴史的環境

武川町には釜無川の支流となる、大武川、小武川、黒沢川、石空川など多くの河川が流れている。それら河川によって形成された河岸段丘や沖積扇状地上には縄文時

代から歴史時代までの多くの遺跡が確認されており、真原A遺跡、向原遺跡、宮間田遺跡等いくつかの遺跡で発掘調査が行われている。

律令体制下において本町域は甲斐国巨麻郡に属し、『和名類聚抄』にみえる"真衣郷"の地に比定されている。郷名の"真衣"は"牧"を意味し、7～8世紀における甲斐国の代表的な牧場地帯であったと思われる。その後真衣野牧は官牧となり、『延喜式』によれば、"柏前御牧"と合わせ、毎年30疋の馬を献じていたという。

県営圃場整備事業に伴い、昭和60・61年度にかけて行われた宮間田遺跡の発掘調査では、町内でも最大規模の平安集落址が発見された。検出された遺構は、竪穴住居跡94軒（うち3軒には小鍛冶遺構が伴う）、掘立柱建物跡45棟、土坑269基である。住居数が最も増加する時期は9世紀末から10世紀の前半である。該期は文献上にみる"駒牽"の行事が最も安定して行われていた時期と重なる。また、「牧口」と書かれた須恵器片や、銅製帯飾り金具の巡方など特殊な遺物も出土しており、本集落が営まれた背景には御牧の存在が想定されている。

本遺跡は宮間田遺跡から北西へおよそ400mの位置に所在している。平成元年に行われた分布調査で縄文時代・平安時代・近世の遺物散布地であることが確認されていた。

第3章　発見された遺構と遺物

1号住居

おおよそ2/3の検出であるが、一辺の長さ約4mの正方形の竪穴住居と思われる。堀込みは約40cmである。カマドは住居の東南の壁際に存在したと思われ、わずかな堀込みと焼土が確認された。西南の壁際に長さ約2.3m、深さ約12cmの周溝が検出された。床面はほぼ全面において堅くしまっている。出土遺物は、完形及び形の復元できるもので坏6点、蓋1点、甕1点、鉄鏃1点である。

2・3号住居

2軒の住居が重複しているため、規模や形態は不明である。新旧関係は遺構断面において南側の住居（2号住居）を北側の住居（3号住居）が切るような状況が確認できたため、3号住居の方が新しい住居と思われる。3号住居の東壁際で浅い堀込みや、焼土・炭化物・礫が検出されている。柱穴等は確認できなかったが、いずれもカマドに伴う遺構と思われる。　周溝は3号住居北壁際に30～50cmの長さで断続的に3本検出された。床面は3号住居東側において明らかに他所と違う貼床らしき硬化面が認められた。遺物は、完形及び形の復元できるもので2号住居から坏2点、皿1点、甕1点、3号住居から坏3点、皿2点、甕2点が出土した。

4号住居

おおよそ1/2の検出であるが、一辺の長さ約3.2mの竪穴住居と思われる。遺構確認面からの掘込みは約20cmである。カマドらしき遺構は確認できなかった。周溝は住居北壁際に長さ40cm・80cmのものが2本検出された。床面の状況はほぼ全面において堅くしまっている。出土遺物は、完形及び形の復元できるもので坏2点、甕1点、鉄鏃1点である。

5号住居

焼土及び炭化した木材が住居の中心から放射状に検出されていることから焼失住居と思われる。住居の一辺の長さは約4m、堀込みは遺構確認面から約36cmである。カマドらしき遺構は調査区内では確認できなかった。周溝は住居東壁と西壁の際に検出された。床面のほぼ全面に焼土が広がっていたが、被熱による硬化面は確認できなかった。焼失の時期については、居住時の不慮の失火による焼失なのか、廃絶後の人為的な放火によるものか不明である。出土遺物は完形及び形の復元できるもので坏2点、甕4点である。

6・7号住居

2軒の重複住居である。2軒とも住居の約1/2は調査区外にある。6号住居は一辺の長さが約4.2m、7号住居は約4.6mである。堀込みは2軒とも約60cmである。いずれの住居からもカマドは確認できなかった。周溝はおそらく6号住居に属すると思われる長さ40cmのものが1本検出された。床面の状況は広範囲にわたり焼土が確認された。焼土はほぼ床面直上にあり、また床面も被熱していることから、6号住居は焼失住居である可能性が高い。遺物は、完形及び形の復元できるもので6号住居から坏1点、7号住居から坏4点、皿1点、甕8点が出土した。

1号竪穴状遺構

長軸7.5m、短軸1.4m、深さ1.3mである。柱穴やカマド等の住居内施設が確認されなかったため、竪穴状遺構とした。覆土は後世の攪乱と考えにくく、遺構確認当初は住居として調査を行った。出土遺物がないため遺構の時期や機能は不明である。

第4章　まとめ

御崎遺跡は、武川町内でも最大規模の平安集落である宮間田遺跡と同じ段丘面に立地している。今回の調査では宮間田遺跡と同じ時代の住居跡が発見された。本遺跡の集落的な位置づけは、宮間田遺跡との比較検討が不可欠であるためここでは、周遺跡の出土土器の編年的な比較から、御崎遺跡の集落の特徴を見ていきたい。また前述のとおり非常に限られた範囲の調査であるため、ここで述べることは一つの可能性にすぎないことを明記しておく。

御崎遺跡・宮間田遺跡出土土器の編年的な比較

山梨県の平安時代の土器については、宮間田遺跡の報告書刊行以降、様々な視点からの研究によって当該期の土器様相を示す編年が発表されている。しかしここでは、御崎遺跡の調査において十分な資料を得ていないことや、宮間田遺跡との集落的な関係性が重要であると思われることから、宮間田遺跡の編年を比較の材料としたい。

『宮間田遺跡』の土器編年は、Ⅰ期～Ⅵ期に細分されている。御崎遺跡からは単独で発見された住居が3軒、重複住居が2軒、計7軒確認されており、それぞれ、

1号住居：宮間田Ⅱ期
2・3号住居：宮間田Ⅱ期～Ⅲ期
4号住居：宮間田Ⅲ期
5号住居：宮間田Ⅲ期
6・7号住居：宮間田Ⅲ期

に対応すると思われる。2・3号住居及び6・7号住居は遺構断面からある程度新旧を把握できる。しかしいずれの重複住居も遺物のほとんどが新住居に伴うものであったため、旧住居の詳細な時期比定はできない。

御崎遺跡の集落の特徴

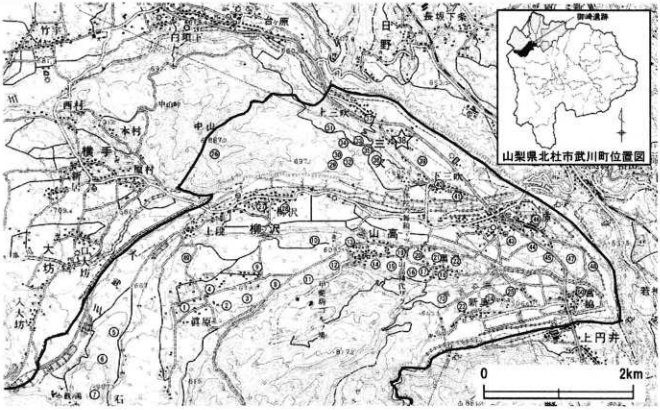
今回の調査は、非常に狭小な範囲であったため集落の全体像はとても把握しきれるものではない。そのためここでは、同一段丘面に立地する宮間田遺跡との比較をとおして、集落の広がりを考えてみたい。

今回検出された住居の時期はおおむね宮間田Ⅱ～Ⅲ期に比定される。該期は宮間田遺跡において住居数が最も増加する時期である。このことから、御崎遺跡の住居は宮間田遺跡の拡張期に形成されたものの一部として捉えることもできる。

しかし同時に疑問点も残る。今回の調査区域の南半分には遺構が全く検出されていない。該地には宮間田遺跡と御崎遺跡に挟まれるようにして三宮貴神社が存在している。平成15年に社殿北50mの位置で、個人住宅建設に伴い試掘調査を行ったが、遺構は検出されなかった。また現地を踏査したところ、当該地は宮間田遺跡、御崎遺跡の中心地に比べわずかではあるが窪地になっていることが認められた。周辺住民にも確認したが、過去に該地が何らかの開発で掘削されたという事実はなかった。よってこの窪地は山筋からの沢もしくは釜無川の旧河道の堆積によって形成されたものと考えられる。該地で遺構が全く発見されない要因がそのような地形的な制限によるものか、三宮貴神社周辺の精神的な境界性によるものかは今後の検討課題としておきたい。しかしいずれにせよ、宮間田遺跡と御崎遺跡の間にこのような空間的な隔たりがある以上、ほぼ同時期の集落址といってもそれが同一集団によって営まれたと考えるのは時期尚早であろう。

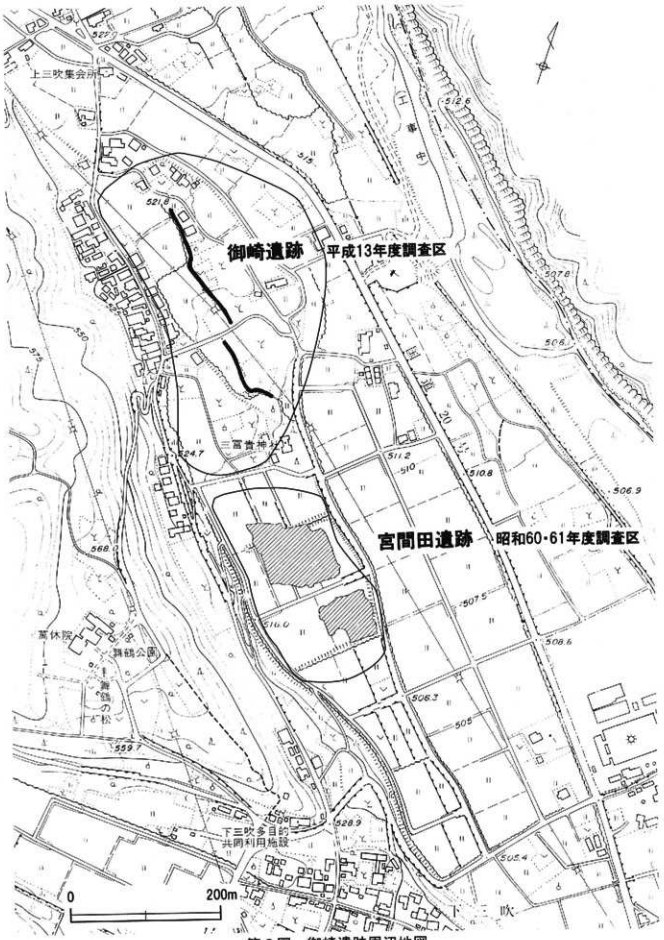
参考文献

平野修・清水能行　1986　『宮間田遺跡発掘調査概報』武川村教育委員会
平野修・清水能行　1988　『宮間田遺跡』　武川村教育委員会
清水能行他　1989　『遺跡詳細分布調査報告書』武川村教育委員会
平野修・櫛原功一他　1992　『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会
平野修他　2001　『石原田北遺跡　Jマート地点』石原田北遺跡発掘調査団
武川村誌編纂委員会　1986　『武川村誌』上巻　武川村
平野修他　1992　『宮ノ前遺跡』　韮崎市遺跡調査会
甲斐型土器研究グループ　1992　『甲斐型土器－その編年と年代－』　山梨県考古学協会
大山祐喜他　2003　『梅之木遺跡Ⅱ』明野村教育委員会
渡邊泰彦　2000「北巨摩地域における黒色土器の様相」『八ヶ岳考古』　北巨摩市町村文化財担当者会
佐野隆　2002　「甲斐時代の巨麻郡北部における土師器坏の流通－遺跡間の諸関係を分析する手法としての甲斐型坏亜種の認識と流通に関する基礎的作業－」『八ヶ岳考古』北巨摩市町村文化財担当者会

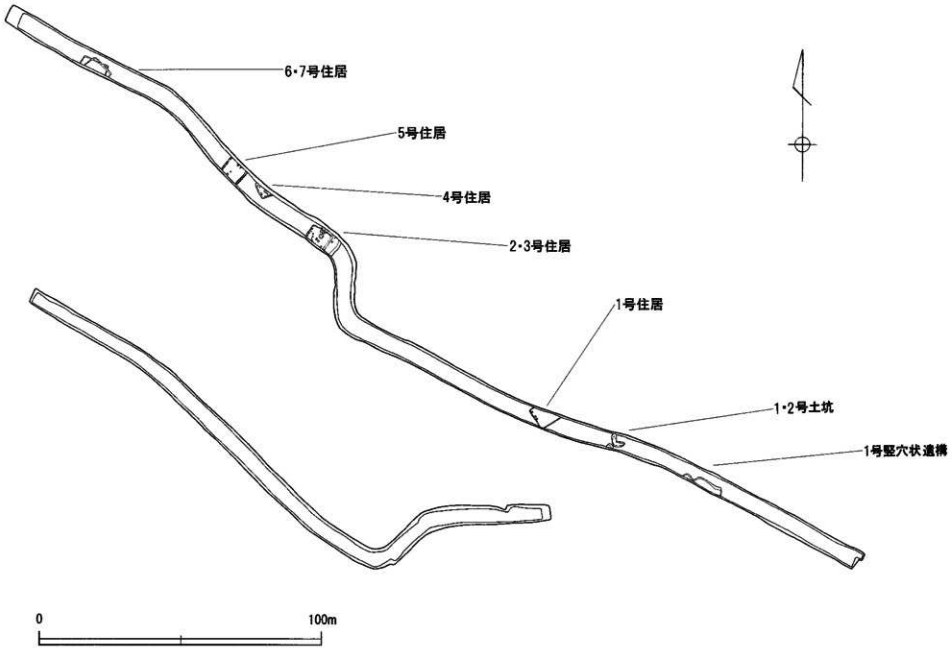


第１図　北杜市武川町遺跡分布図

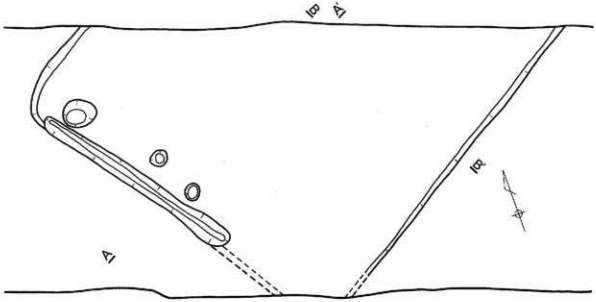
1　真原Ａ遺跡　（縄文中期）
2　真原Ｂ遺跡　（縄文）
3　真原Ｃ遺跡　（縄文・平安）
4　真原Ｄ遺跡　（縄文・弥生）
5　鴨尾遺跡　（縄文）
6　城山遺跡　散布地（平安）
7　星山古城遺跡　城館址（戦国）
8　萩坂Ｂ影遺跡　散布地（縄文）
9　下原Ａ遺跡　散布地（縄文）
10　下原Ｂ遺跡　散布地（縄文・弥生・中世）
11　神林遺跡　散布地（縄文・中世）
12　西ノ宮遺跡　散布地（縄文・中世）
13　寺久保遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
14　大小路遺跡　散布地（縄文）
15　東原Ａ遺跡　散布地（縄文・中世）
16　東原Ｂ遺跡　集落址（縄文中期）
17　実原Ｂ遺跡　散布地（縄文草創期・中期・奈良・平安・中世）
18　小路遺跡　散布地（中世・近世）
19　山高遺跡　散布地・館跡（縄文中期・中世・近世）
20　実原Ａ遺跡　集落址（縄文前期・中期）
21　北小路遺跡　散布地（縄文・中世）
22　黒沢遺跡　集落址（縄文前期・中期・中世）
23　大持原Ａ遺跡　散布地（縄文）
24　大持原Ｂ遺跡　散布地（平安・中世）
25　上原遺跡　散布地（縄文・平安・中世・近世）
26　中山砦　城館址（戦国）
27　中村遺跡　散布地（中世）
28　下町遺跡　散布地（中世）
29　西久保Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
30　坂上Ａ遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
31　坂上Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
32　西久保Ｂ遺跡　散布地（奈良・平安・中世・近世）
33　山田Ａ遺跡　窯跡（近代）
34　山田Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
35　山田Ｃ遺跡　散布地（中世・近世）
36　新左ヱ門原遺跡　散布地（弥生・中世・近世）
37　富貴野遺跡　散布地（縄文）
38　御崎遺跡　集落址（縄文・平安・近世）
39　宮間田遺跡　集落址（平安）
40　尾崎Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
41　尾崎Ｂ遺跡　散布地（平安）
42　金仏寺遺跡　散布地（中世・近世）
43　西原Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
44　西原Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
45　北原遺跡　散布地（縄文）
46　下田中遺跡　散布地（中世・近世）
47　牧原東原遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
48　ママ下遺跡　散布地（中世・近世）
49　柳沢上原遺跡　散布地（縄文・平安）
50　三貫目遺跡　散布地（縄文・中世）
73　向原遺跡　集落址（縄文前・中・後期・弥生・平安・中世）

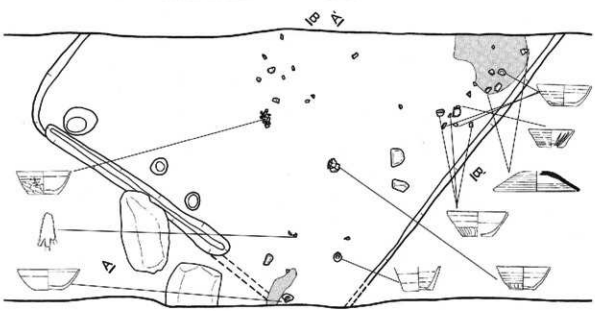


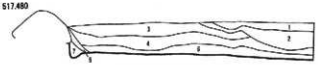
第２図　御崎遺跡周辺地図



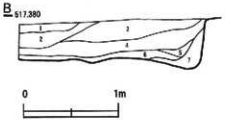
第３図　調査区全体





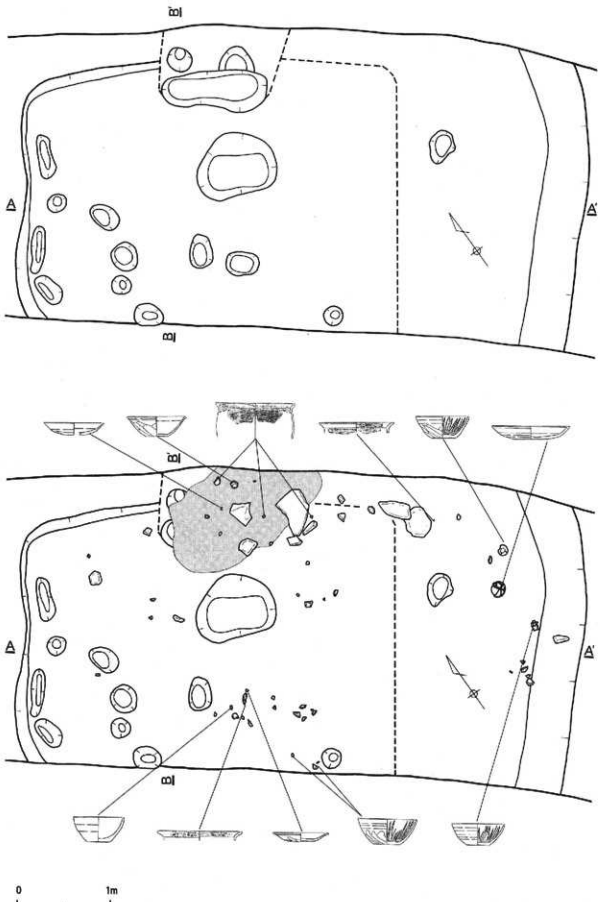


1層　10YR1.7/1(黒)炭化物1%、径1～10mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)焼土・炭化物1%、径1～3mmの礫が25%混入、しまりあり、シルト粒土。
3層　10YR1.7/1(黒)径1～5mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
4層　10YR1.7/1(黒)10YR4/4(褐)ブロック3%、焼土2%、径1～5mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
5層　10YR1.7/1(黒)焼土1%、径1～10mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
6層　10YR1.7/1(黒)焼土2%、径1～5mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
7層　10YR1.7/1(黒)径1～3mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。

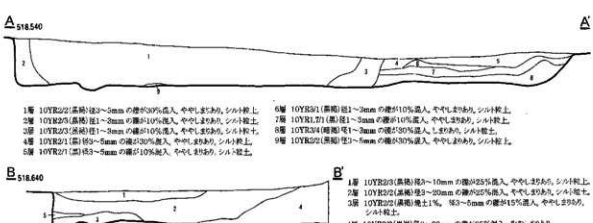


1層　10YR1.7/1(黒)炭化物1%　径1～10mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)焼土・炭化物1%、径1～3mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
3層　10YR1.7/1(黒)10YR4/4(褐)ブロック1%、径1～3mmの礫が25%混入、しまりあり、シルト粒土。
4層　10YR1.7/1(黒)10YR4/4(褐)ブロック3%、径1～5mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
5層　10YR2/3(黒褐)径1～3mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
6層　10YR1.7/1(黒)焼土2%、径1～5mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
7層　10YR3/4(暗褐)径1～3mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。

第４図　１号住居



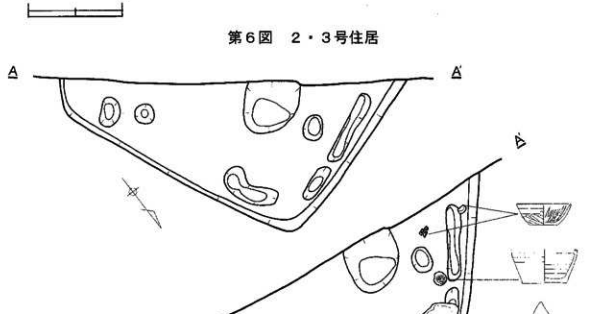
第５図　２・３号住居



1層 10YR2/2(黒褐)径3~5mmの礫が30%混入。ややしまりあり。シルト粒上。
2層 10YR2/3(黒褐)径1~3mmの礫が10%混入。ややしまりあり。シルト粒土。
3層 10YR2/3(黒褐)径1~3mmの礫が10%混入。ややしまりあり。シルト粒土。
4層 10YR2/1(黒)径3~5mmの礫が30%混入。ややしまりあり。シルト粒上。
5層 10YR2/1(黒)径3~5mmの礫が10%混入。ややしまりあり。シルト粒土。
6層 10YR3/1(黒褐)径1~3mmの礫が10%混入。ややしまりあり。シルト粒上。
7層 10YR1.7/1(黒)径1~3mmの礫が10%混入。ややしまりあり。シルト粒上。
8層 10YR3/4(暗褐)粒1~3mmの礫が30%混入。しまりあり。シルト粒土。
9層 10YR3/1(黒褐)径3~5mmの礫が30%混入。ややしまりあり。シルト粒上。

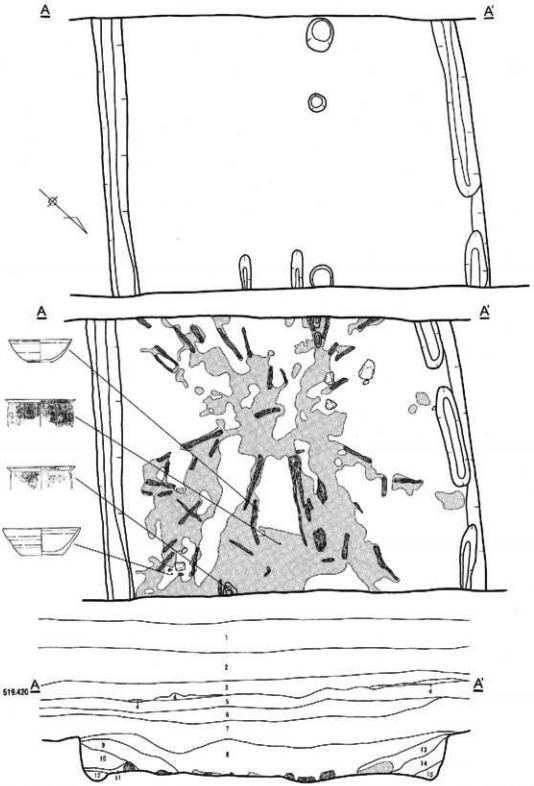
1層 10YR3/3(黒褐)径3~10mmの礫が25%混入。ややしまりあり。シルト粒上。
2層 10YR3/2(黒褐)径3~20mmの礫が25%混入。ややしまりあり。シルト粒土。
3層 10YR2/2(黒褐)焼土1%。粒3~5mmの礫が15%混入。ややしまりあり。シルト粒土。
4層 10YR2/2(黒褐)径3~20mmの礫が25%混入。ややしまりあり。
5層 10YR2/2(黒褐)焼土5%。径3~5mmの礫が20%混入。ややしまりあり。

第6図　2・3号住居



1層 10YR3/3(黒褐)径1~5mmの礫が30%混入。しまりあり。シルト粒上。
2層 10YR2/1(黒)径1~2mmの炭(雑穀粒)が40%混入。しまりなし。シルト粒土。
3層 10YR2/1(黒)焼土3%。径1~3mmの礫が30%混入。しまりあり。シルト粒土。
4層 10YR3/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%。焼土が5%。炭化物1%。径1~5mmの礫が20%混入。しまりあり。シルト粒土。
5層 10YR1.7/1(黒)焼土・炭化物1%。径1~3mmの礫が20%混入。しまりあり。シルト粒土。
6層 10YR2/1(黒)10YR4/4(褐)のブロックが7%。焼土・炭化物1%。径1~5mmの礫が30%混入。しまりあり。シルト粒上。
7層 10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%。炭化物1%。径1~3mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒上。
8層 10YR2/1(黒)10YR4/6(褐)のブロック5%。10YR4/4(褐)のブロックが2%。焼土・炭化物1%。径1~5mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒土。
9層 10YR2/2(黒褐)炭化物1%。径1~3mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒土。
10層 10YR2/2(黒褐)径1~2mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒土。
11層 10YR2/3(黒褐)径1~5mmの礫が5%混入。しまりあり。シルト粒土。
12層 10YR2/1(黒)径1~3mmの礫が5%混入。しまりあり。シルト粒土。
13層 10YR2/1(黒)径1~3mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒土。
14層 10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が5%。径1~3mmの礫が10%混入。しまりあり。シルト粒土。

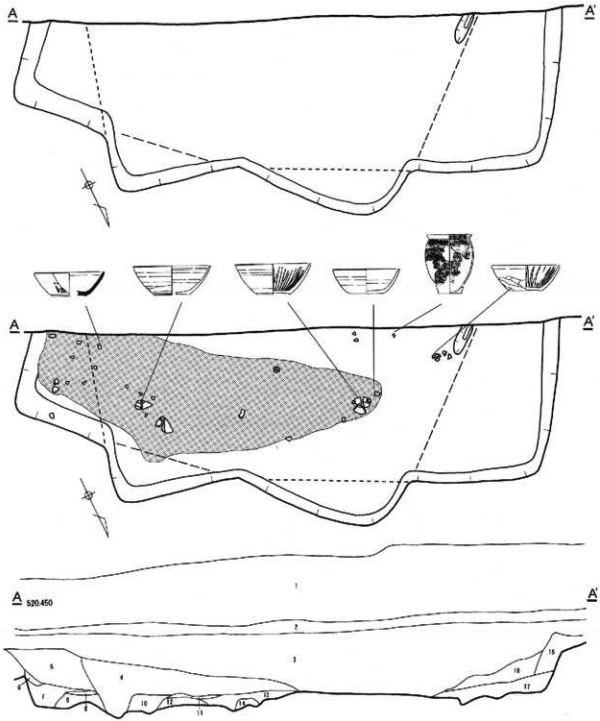
第7図　4号住居



1層　10YR3/4(暗褐)　径2～20mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)径2～8mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)径1～5mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/1(褐灰)の地山が70%混入　径1～5mmの礫が30%混入。やや、まりあり
5層　10YR2/2(黒褐)径2～10mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
6層　10YR2/2(黒褐)に10YR5/6(黄)が3%。焼化粒1%。径2～10mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
7層　10YR2/2(黒褐)焼化粒1%。径2～10mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
8層　10YR2/2(黒褐)焼化粒1%。径2～10mmの礫が30%混入。しまりあり、シルト粒土。
9層　10YR2/2(黒褐)炭化粒3%。焼土1%。径2～15mmの礫が10%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
10層　10YR2/2(黒褐)焼化粒3%。焼土1%。径2～8mmの礫が5%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
11層　10YR3/2(黒褐)焼化粒5%。焼土20%。径2～5mmの礫が3%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
12層　10YR2/2(黒褐)径2～5mmの礫が2%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
13層　10YR2/2(黒褐)径2～5mmの礫が20%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
14層　10YR2/2(黒褐)径2～8mmの礫が20%混入。やや、まりあり、シルト粒土。
15層　10YR2/2(黒褐)炭化粒2%。径2～8mmの礫が20%混入。やや、まりあり、シルト粒土。

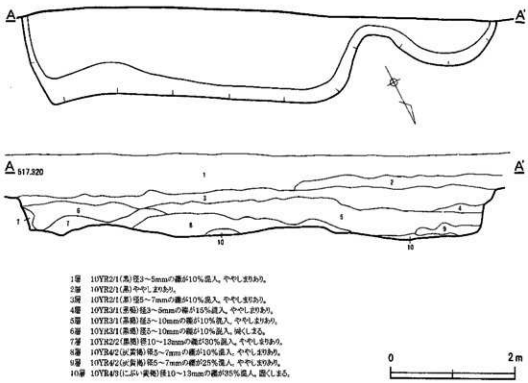
0　1m

第８図　５号住居



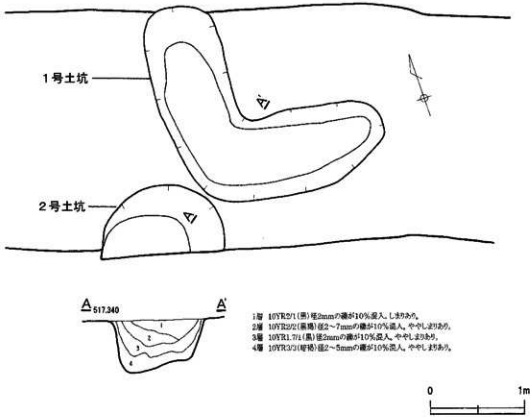
1層　10YR4/4(褐)：径2～10mmの礫が2%混入、しまりあり、シルト粒土。
2層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
3層　10YR3/2(黒褐)地土・焼化物1%、径3～80mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
4層　10YR2/2(黒褐)地土2%、焼化物1%、径3～10mmの礫が30%混入、しまりあり、シルト粒土。
5層　10YR2/2(黒褐)地土1%、炭化物2%、径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
6層　10YR2/2(黒褐)径2～5mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
7層　10YR2/2(黒褐)地土2%、炭化物1%、径2～5mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
8層　10YR2/2(黒褐)地土20%、炭化物径2～5mmの礫が5%混入、しまりあり、シルト粒土。
9層　10YR2/2(黒褐)地土2%、炭化物1%、径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
10層　10YR2/2(黒褐)地土・焼化物1%、径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
11層　10YR2/2(黒褐)地土・炭化物1%、径2～5mmの礫が2%混入、しまりあり、シルト粒土。
12層　10YR2/2(黒褐)地土・炭化物1%、径2～5mmの礫が5%混入、しまりあり、シルト粒土。
13層　10YR2/2(黒褐)地土3%、炭化物1%、径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
14層　10YR2/2(黒褐)地土・炭化物1%、径5mmの礫が10%混入、しまりあり、シルト粒土。
15層　10YR2/2(黒褐)径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
16層　10YR2/2(黒褐)径2～20mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。
17層　10YR2/2(黒褐)径2～10mmの礫が20%混入、しまりあり、シルト粒土。

第９図　６・７号住居



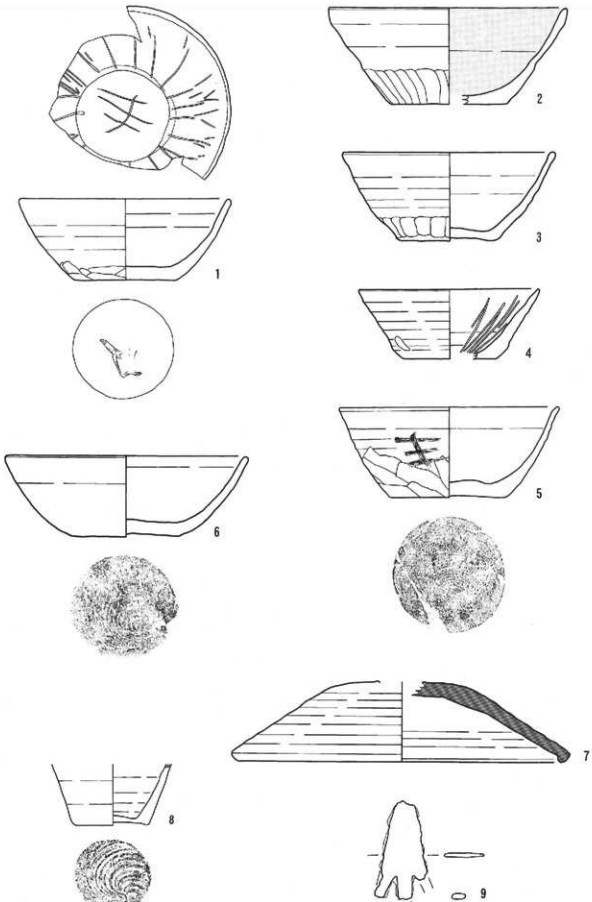
1層　10YR2/1(黒)径3～5mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
2層　10YR2/1(黒)やや、土のあり。
3層　10YR2/1(黒)径5～7mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
4層　10YR3/1(黒褐)径3～5mmの礫が15%混入。ややしまりあり。
5層　10YR3/1(黒褐)径5～10mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
6層　10YR3/1(黒褐)径5～10mmの礫が10%混入。締くしまる。
7層　10YR2/2(黒褐)径10～12mmの礫が30%混入。ややしまりあり。
8層　10YR4/2(灰黄褐)径5～7mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
9層　10YR4/2(灰黄褐)径5～7mmの礫が25%混入。ややしまりあり。
10層　10YR4/3(にぶい黄褐)径10～13mmの礫が35%混入。固くしまる。

第10図　1号竪穴状遺構

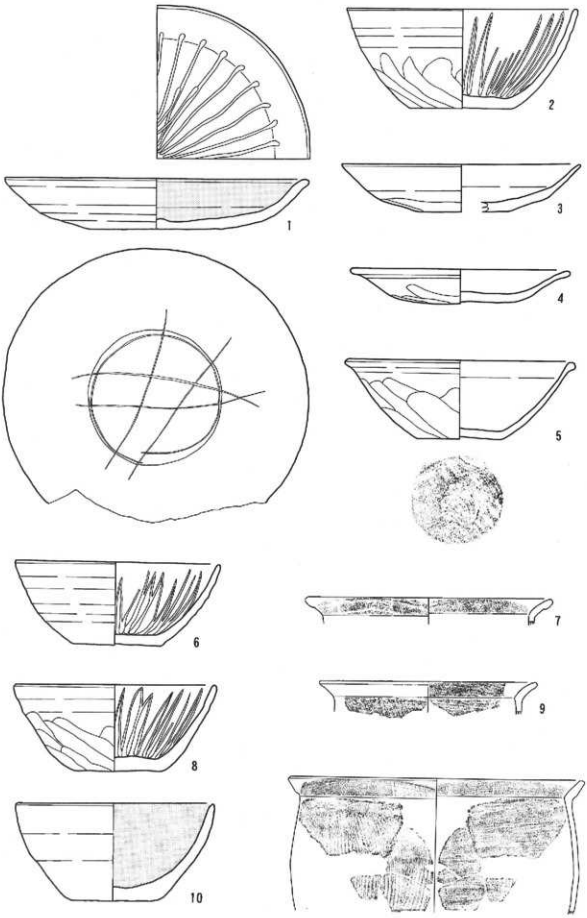


1層　10YR2/1(黒)径2mmの礫が10%混入。しまりあり。
2層　10YR2/2(黒褐)径2～7mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
3層　10YR1.7/1(黒)径2mmの礫が10%混入。ややしまりあり。
4層　10YR3/3(暗褐)径2～5mmの礫が10%混入。ややしまりあり。

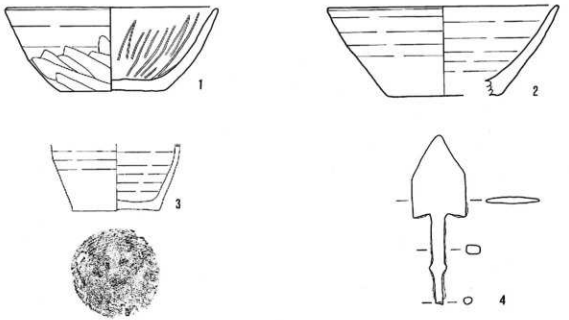
第11図　1・2号土坑



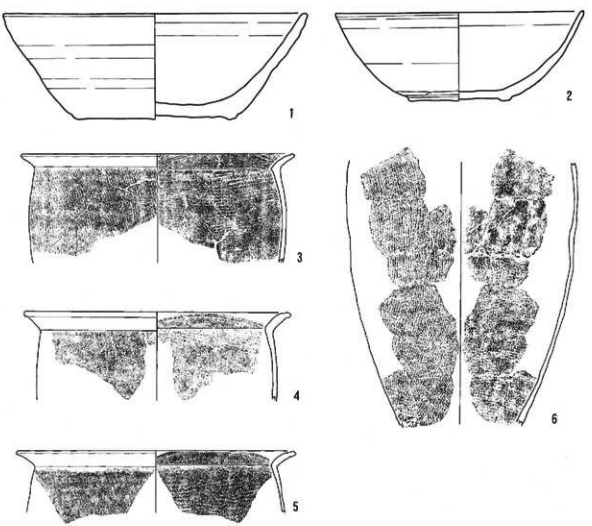
第12図　1号住居出土遺物 (1/2、8は1/4)



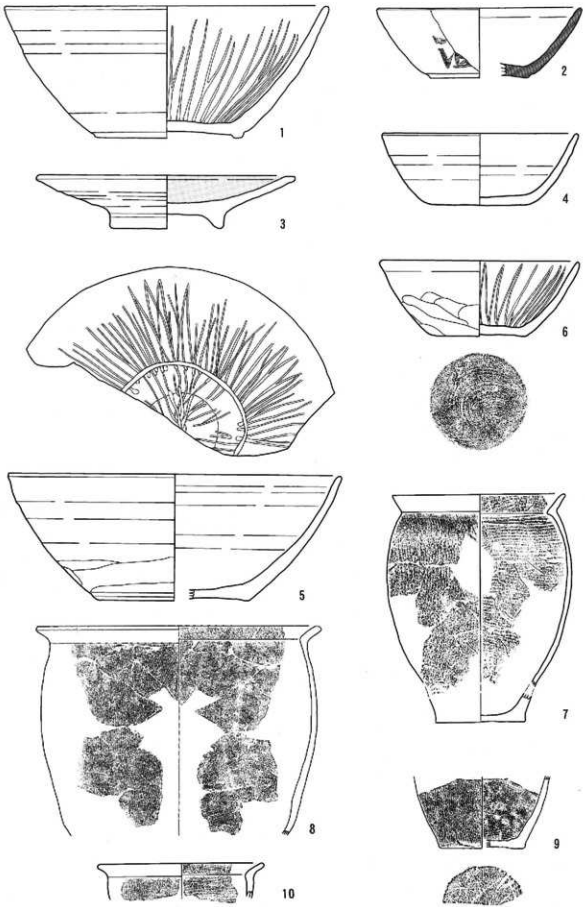
第13図　２・３号住居出土遺物（1/2、７・９・11は1/4）



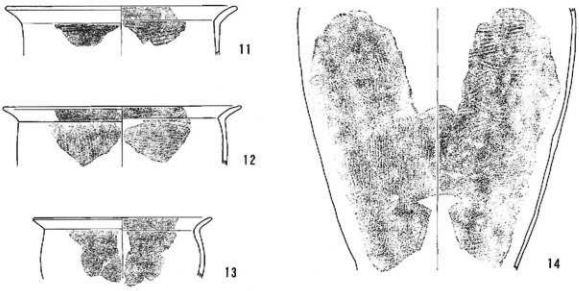
第14図　４号住居出土遺物 (1/2、3は1/4)



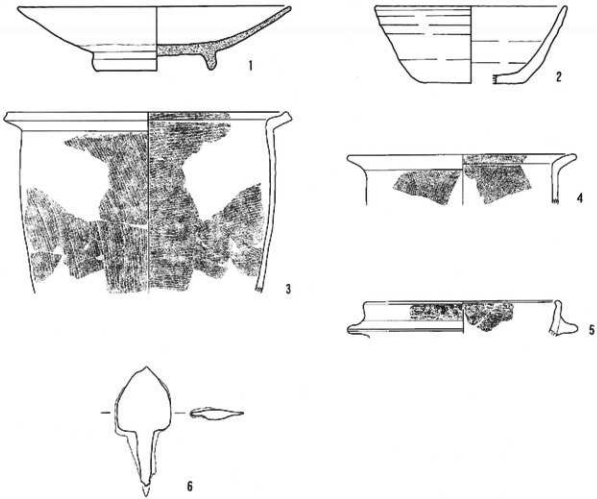
第15図　５号住居出土遺物 (1/2、3～6は1/4)



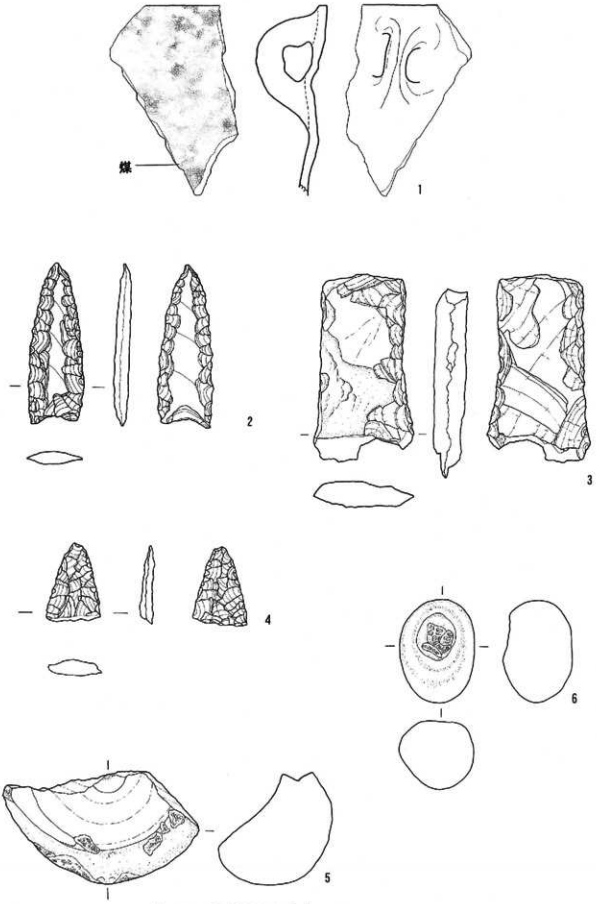
第16図　６・７号住居出土遺物（1/2、７・９は1/3、８・10は1/4）



第17図　６・７号住居出土遺物（1/4）



第18図　遺構外出土遺物（1/2、３～５は1/4）



第19図　遺構外出土遺物（1/2、2・4は1/1）

第20図　遺構外出土遺物 (1/2)

第１表　土器観察表

図版	番号	出土地点	層位	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考	色調（外面）	胎土	残存
第12図	1	1住	下層	土師器	坏	(11.2)	5.2	4.3	暗文・内面底に刺青・底面に墨書	5YR6/8	赤・黒・白・雲母	1/2
第12図	2	1住	下層	土師器	坏	12.6	6.1	5.1	内面黒色処理及び磨き	7.5YR5/6	黒・白・雲母	1/2
第12図	3	1住	中層	土師器	坏	11.0	5.0	4.7	回転糸切・底面に墨書	2.5YR5/6	赤・黒・白・雲母	4/5
第12図	4	1住	下層	土師器	坏	(9.4)	(4.8)	3.8	暗文・ヘラ削り	7.5YR5/4	赤・黒・白・雲母	1/4
第12図	5	1住	床直	土師器	坏	11.5	6.1	4.8	回転糸切・ヘラ削り・外面に墨書	2.5YR5/6	赤・黒・雲母	2/3
第12図	6	1住	中層	土師器	坏	12.8	5.5	4.3	回転糸切	2.5Y6/1	赤・黒・白・雲母	2/3
第12図	7	1住	床直	須恵器	蓋	-	(16.8)	--		7.5Y4/1	赤・黒・白	1/3
第12図	8	1住	下層	土師器	カメ	-	6.3	--	糸切り痕	2.5YR4/4	白・黒・赤・石英	1/4
第13図	1	2・3住	下層	土師器	皿	16.2	7.0	2.7	暗文・内面黒色処理・底面に刺書	2.5YR5/8	赤・黒	完形
第13図	2	2・3住	床直	土師器	坏	(12.1)	5.3	5.3	暗文・ヘラ削り	5YR5/4	赤・黒・白・雲母	1/4
第13図	3	2・3住	床直	土師器	皿	(12.5)	(6.0)	2.5	ヘラ削り	7.5YR6/4	赤・黒・白・雲母	1/4
第13図	4	2・3住	下層	土師器	皿	11.5	4.1	1.8	ヘラ削り	7.5YR5/4	赤・黒・白・雲母	2/3
第13図	5	2・3住	下層	土師器	坏	12.2	4.6	4.2	ヘラ削り	5YR6/6	赤・黒・白・雲母	2/3
第13図	6	2・3住	中層	土師器	坏	(10.8)	4.7	4.4	回転糸切・暗文	5YR6/8	赤・黒・白	1/2
第13図	7	2・3住	上層	土師器	カメ	(25.8)	-	-	ハケメ	2.5YR4/6	白・黒・赤雲母・石英	小破片
第13図	8	2・3住	下層	土師器	坏	10.7	4.8	4.6	暗文・ヘラ削り	2.5YR5/6	赤・黒・白・雲母	完形
第13図	9	2・3住	不明	土師器	カメ	(23.6)	-	-	ハケメ	5YR5/6	白・黒・赤・雲母	小破片
第13図	10	2・3住	下層	土師器	坏	(10.4)	(4.4)	5.2	回転糸切・内面黒色処理	10YR6/4	黒・白・雲母・石英	小破片
第13図	11	2・3住	上層	土師器	カメ	(32.6)	-	-	ハケメ	2.5YR5/6	白・黒・赤・雲母	小破片
第14図	1	4住	中層	土師器	坏	11.3	5.5	4.5	暗文・ヘラ削り	5YR4/1	赤・黒・白・雲母	完形
第14図	2	4住	中層	土師器	坏	(12.1)	(6.0)	4.7		7.5YR5/1	黒・白・雲母	1/4
第14図	3	4住	床直	土師器	カメ	-	9.2		ロクロ・糸切り痕	5YR5/6	白・黒・赤	小破片
第15図	1	5住	上層	土師器	坏	(16.0)	(8.4)	5.6	高台付・内向ヘラ削り	7.5YR7/4	赤・黒・白・雲母	1/2
第15図	2	5住	床直	土師器	坏	(13.0)	(5.2)	(4.7)	高台付	5YR6/6	赤・黒・白	1/4
第15図	3	5住	床直	土師器	カメ	(28.5)	-	-	ハケメ	2.5YR4/6	白・黒・雲母・石英	小破片
第15図	4	5住	下層	土師器	カメ	(27.8)	-	-	ハケメ	5YR3/4	白・黒・雲母	小破片
第15図	5	5住	不明	土師器	カメ	(29.2)	-	-	ハケメ	5YR3/6	白・黒・雲母	小破片
第15図	6	5住	不明	土師器	カメ	-	-	-	ハケメ	2.5YR5/6	白・黒・赤・雲母	小破片
第16図	1	6・7住	下層	土師器	坏	17.0	7.7	7.0	暗文・高台付	2.5YR6/6	赤・白・黒・雲母	完形
第16図	2	6・7住	下層	須恵器	坏	(10.8)	(5.2)	3.7	回転糸切・外面に墨書	7.5Y4/1	白・黒・石英	1/3
第16図	3	6・7住	不明	土師器	皿	13.5	5.8	2.8	高台付・内面黒色処理及び磨き	10YR7/4	黒・白・雲母	1/2
第16図	4	6・7住	中層	土師器	坏	(10.4)	(5.2)	3.8	外面に墨書？	7.5YR7/4	赤・黒・白	1/4
第16図	5	6・7住	下層	土師器	坏	17.5	8.0	6.7	高台付・暗文・ヘラ削り	5YR5/6	赤・黒・白・雲母	1/2
第16図	6	6・7住	下層	土師器	坏	10.6	5.0	4.0	暗文・回転糸切・ヘラ削り	5YR5/6	赤・黒	4/5
第16図	7	6・7住	下層	土師器	カメ	(12.0)	(7.1)	-	ハケメ・木葉痕	5YR3/4	白・黒・赤・雲母	1/5
第16図	8	6・7住	不明	土師器	カメ	(29.5)	-	-	ハケメ	5YR5/6	白・黒・雲母・石英	小破片
第16図	9	6・7住	不明	土師器	カメ	-	(9.0)		ハケメ・木葉痕	5YR4/6	白・黒・石英	小破片

第16図	10	6・7住	不明	土師器	カメ	(13.2)	—	—	ハケメ	5YR5/8	白・黒・雲母・石英	小破片
第17図	11	6・7住	不明	土師器	カメ	(24.0)	—	—	ハケメ	2.5YR4/6	白・黒・雲母	小破片
第17図	12	6・7住	不明	土師器	カメ	(24.8)	—	〃	ハケメ	5YR5/6	白・黒・石英	小破片
第17図	13	6・7住	不明	土師器	カメ	(18.6)	〃	〃	ハケメ	5YR6/8	白・黒・雲母・石英	小破片
第17図	14	6・7住	不明	土師器	カメ	〃	〃	〃	ハケメ	5YR4/4	白・黒・雲母・石英	小破片
第18図	1	遺構外	不明	灰釉陶器	皿	14.3	6.0	3.4	高台付・内外両面施釉	2.5Y6/1	黒・白	2/3
第18図	2	遺構外	不明	土師器	坏	(10.1)	(5.2)	4.1	回転糸切・内面黒色処理	10YR6/4	黒・白・石英	1/4
第18図	3	遺構外	不明	土師器	カメ	(30.0)	—	〃	ハケメ	7.5YR2/2	赤・黒・白・雲母	小破片
第18図	4	遺構外	不明	土師器	カメ	(23.8)	〃	〃	ハケメ	5YR3/4	黒・白・雲母	小破片
第18図	5	遺構外	不明	土師器	羽釜	(20.6)	—	—	ハケメ	5YR5/4	黒・白・雲母・石英	小破片
第19図	1	遺構外	不明	内耳土器	—	—	—	—	ナデ	5YR3/2	赤・黒・白・雲母	小破片
第20図	1	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線・縄文	5YR7/8	赤・白・雲母	小破片
第20図	2	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	〃	〃	〃	沈線	7.5YR5/8	白・雲母	小破片
第20図	3	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線	5YR6/8	赤・白・雲母	小破片
第20図	4	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線	2.5YR4/8	赤・白・雲母	小破片
第20図	5	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	〃	〃	〃	縄文	2.5YR5/9	白・雲母・石英	小破片
第20図	6	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線	2.5YR5/8	白・石英	小破片
第20図	7	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	角押文	5YR5/8	白・雲母・石英	小破片
第20図	8	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線	2.5YR4/8	赤・白・雲母・石英	小破片
第20図	9	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	角押文	2.5YR4/8	赤・白・雲母	小破片
第20図	10	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	〃	〃	〃	沈線	5YR7/8	白・黒	小破片
第20図	11	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	〃	沈線	7.5YR7/8	赤・白・黒・雲母	小破片
第20図	12	遺構外	不明	不明	不明	—	—	—	沈線	7.5YR7/8	白・雲母・石英	小破片
第20図	13	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文	2.5YR4/8	白・黒・雲母・石英	小破片
第20図	14	遺構外	不明	不明	不明	〃	—	—	ハケメ?	2.5YR5/8	白・石英	小破片
第20図	15	遺構外	不明	縄文土器	深鉢	〃	〃	〃	沈線・爪形文・除刻文	5YR4/2	白・黒・雲母	小破片
第20図	16	遺構外	不明	縄文土器	浅鉢	—	—	—	角押文	2.5YR4/8	白・石英	小破片
第20図	17	遺構外	不明	不明	不明	—	—	—	沈線	5YR6/8	赤・白・雲母・石英	小破片
第20図	18	遺構外	不明	不明	不明	—	—	〃	ハケメ	5YR7/8	白・石英	小破片

第2表　石器・石製品一覧

図版	番号	出土地点	層位	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石質	重量(g)
第19図	2	遺構外	不明	石鏃	4.3	1.5	0.4	泥岩	2.6
第19図	3	遺構外	不明	打斧	9.9	5.3	1.3	粘板岩	128
第19図	4	遺構外	不明	石鏃	2.1	1.4	0.4	黒曜石	0.8
第19図	5	遺構外	不明	石鉢	10.4	5.9	5.9	安山岩	347
第19図	6	2住	不明	磨石	4.9	4	3.3	硬砂岩	117

第3表　金属製品一覧

図版	番号	出土地点	層位	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	材質	重量(g)
第12図	9	1住	不明	鉄鏃	5.1	2.1	0.3	鉄	7.1
第14図	4	4住	不明	鉄鏃	8.9	2.8	0.5	鉄	16.5
第18図	6	遺構外	不明	鉄鏃	6.3	2.8	0.5	鉄	12.1

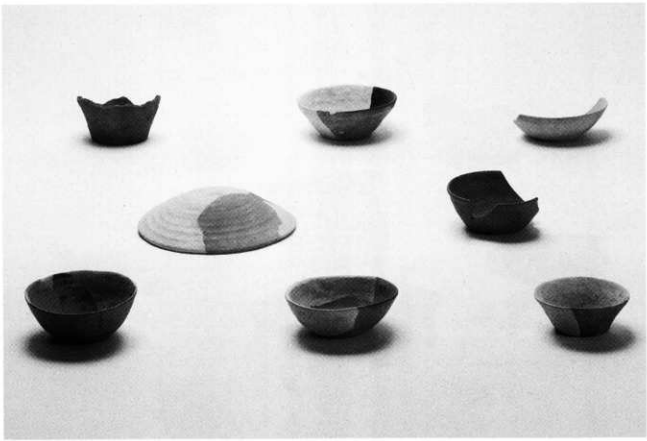
図版１　１号住居遺物出土状況

図版２　２・３号住居遺物出土状況

図版３　４号住居遺物出土状況

図版４　５号住居遺物出土状況

図版５　６・７号住居遺物出土状況

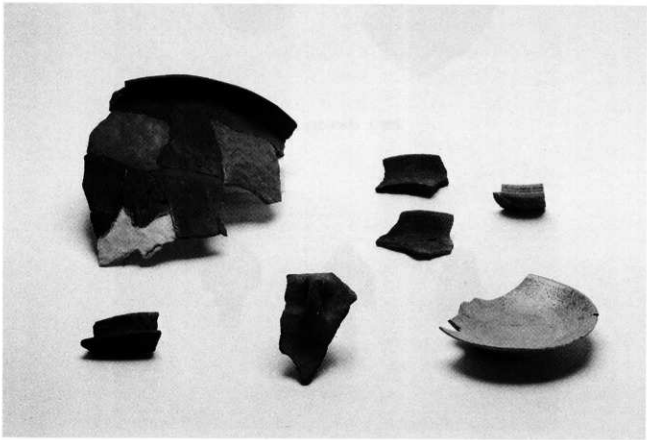


図版６　１号住居出土遺物

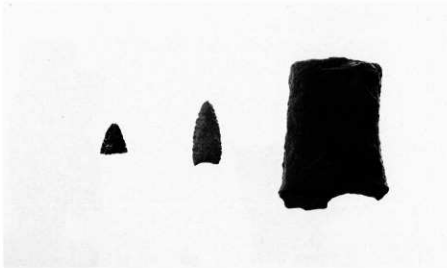
図版７　２・３号住居出土遺物

図版８　４・５号住居出土遺物

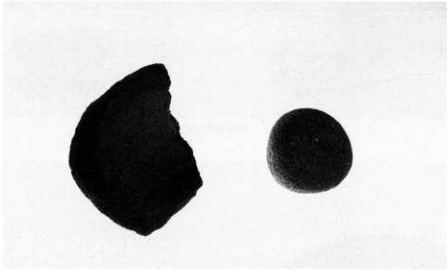
図版9　6・7号住居出土遺物



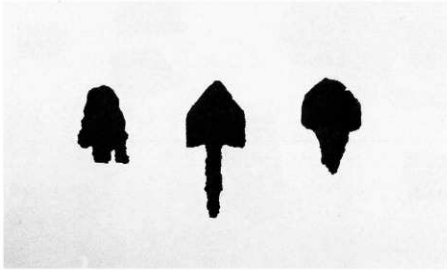
図版10　遺構外出土遺物(土器)



図版11　遺構外出土遺物(石器)



図版12　遺構外出土遺物(石器)



図版13　鉄鏃(左から１号住・４号住・遺構外)

報告書抄録

フリガナ	ミサキイセキ
書名	御崎遺跡
副題	中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）農用排６号工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ	北杜市埋蔵文化財発掘調査報告　第９集
著者名	平山惠一・坂口広太
編集・発行機関	北杜市教育委員会
住所・電話	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1 ℡　0551-42-1373
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012　長野県長野市柳原 2133-5
発行日	2005 年 3 月 31 日
遺跡所在地	山梨県北杜市武川町三吹字御崎
遺跡番号	1920917038
1/25,000 地図名 位置・標高	韮崎 北緯 35° 47′ 25″　東経 138° 22′ 17″　標高 519 m
調査原因	中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）農用排６号工事
調査期間	2001 年 10 月 19 日～2002 年 3 月 17 日
調査面積	1,140 ㎡
主な時代	平安時代
主な遺構	平安時代（竪穴住居跡７軒） その他（竪穴状遺構１基、土坑２基）
主な遺物	縄文時代（土器、石器） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、鉄族） その他（内耳土器）

北杜市埋蔵文化財発掘調査報告書　第９集

御崎遺跡
中山間地域総合整備事業（甲斐駒清流の郷）農用排６号工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005年３月25日　印刷
2005年３月31日　発行

編集・発行　北杜市教育委員会
〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
℡ 0551-42-1373

印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381-0012　長野県長野市柳原2133-5
℡ 026-244-0235（代）